

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成21年5月21日(2009.5.21)

【公表番号】特表2008-537110(P2008-537110A)

【公表日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【年通号数】公開・登録公報2008-036

【出願番号】特願2008-504212(P2008-504212)

【国際特許分類】

G 01 N 33/53 (2006.01)

G 01 N 33/547 (2006.01)

G 01 N 33/577 (2006.01)

C 07 H 15/252 (2006.01)

C 07 K 16/44 (2006.01)

C 12 P 21/08 (2006.01)

【F I】

G 01 N 33/53 S

G 01 N 33/547

G 01 N 33/577 B

C 07 H 15/252 C S P

C 07 K 16/44

C 12 P 21/08

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月27日(2009.3.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

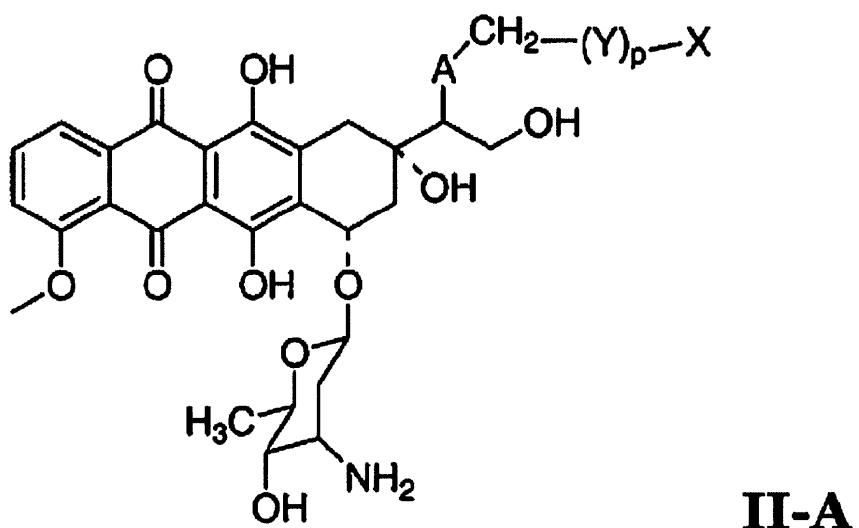
【請求項1】

a) 試料と、

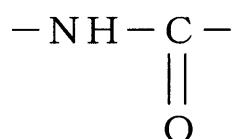
b) ドキソルビシンに実質的に反応し、ドキソルビシンアグリコンに実質的に交差反応しない抗体と、

c) 一般式

【化1】



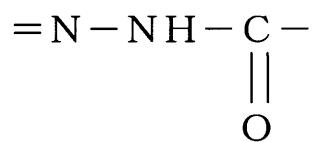
(式中、Aは
【化2】



= N - O -

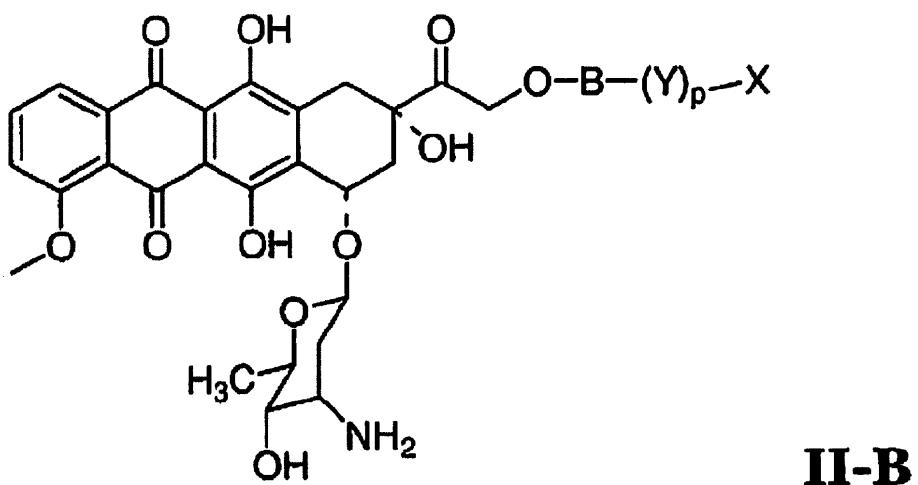
又は

【化3】



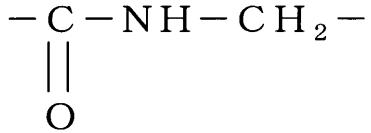
であって、Yは有機スペーシング基、Xはアミノ又はチオール基を介して担体に結合可能な官能基、pは0から1の整数である)の化合物、
一般式

【化 4】



(式中、X, Y及びpは上述のとおりであり、Bは-CH₂-又は【化5】)

105



である)

の化合物、又はその混合物を伴う、反応性前記チオール基又はアミノ基のどちらかを有する前記担体の共役と

の混合物を準備することを含む前記試料中のドキソルビシン検出のための免疫測定法であつて、

試料中のドキソルビシン及び前記混合物中の前記共役を前記混合物中で前記抗体と結合させ、その後、前記抗体に結合又は未結合の前記混合物中の前記共役量を測定し、それによって試料中のドキソルビシンの存在を測定することができる特徴とする免疫測定法。

【請求項 2】

請求項 1 記載の免疫測定法であって、一般式 IIA の化合物及び / 又は一般式 IIB の化合物において p は 0 であることを特徴とする免疫測定法。

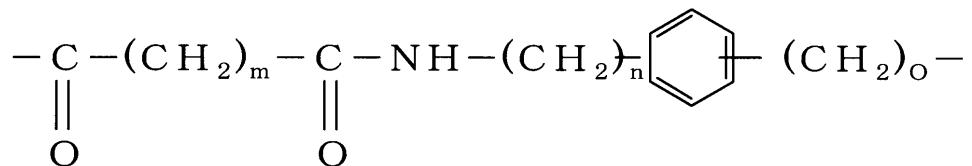
【請求項3】

請求項 1 記載の免疫測定法であって、一般式 IIA の化合物及び / 又は一般式 IIB の化合物において ρ は 1 であることを特徴とする免疫測定法。

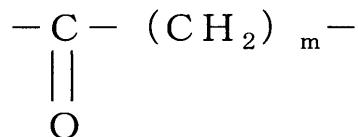
【請求項4】

請求項 3 記載の免疫測定法であって、一般式 IIA の化合物及び / 又は一般式 IIB の化合物において、Y は 1 から 10 の炭素原子を含むアルキレン、

【化6】

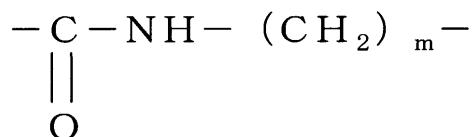


【化7】



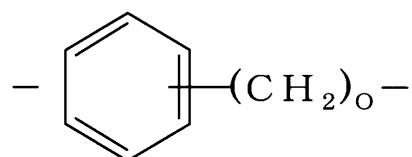
又は

【化8】



又は

【化9】



(式中 n 及び o は 0 から 6 の整数であり、m は 1 から 6 の整数である)

であることを特徴とする免疫測定法。

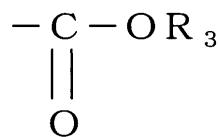
【請求項5】

請求項3又は4記載の免疫測定法であって、一般式IIAの化合物及び/又は一般式IIBの化合物において、Yは1から10の炭素原子を含むアルキレンであることを特徴とする免疫測定法。

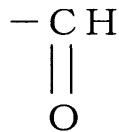
【請求項6】

請求項1~5いずれか一項に記載の免疫測定法であって、一般式IIAの化合物及び/又は一般式IIBの化合物において、Xは

【化10】

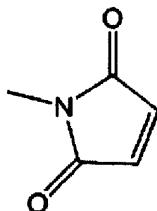
- N = C = R₄、

【化11】



又は

【化12】



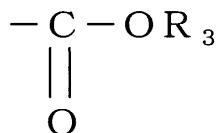
(式中、R₃は水素又はそれに結びつく酸素原子と一緒に得られる反応性エステルであり、R₄は酸素又は硫黄である)

であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項7】

請求項1～6いずれか一項に記載の免疫測定法であって、一般式IIAの化合物及び/又は一般式IIBの化合物において、Xは

【化13】

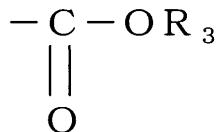


であり、R₃は水素であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項8】

請求項1～6いずれか一項に記載の免疫測定法であって、一般式IIAの化合物及び/又は一般式IIBの化合物において、Xは

【化14】



であり、R₃は反応性エステルを形成することを特徴とする免疫測定法。

【請求項9】

請求項8記載の免疫測定法であって、一般式IIAの化合物及び/又は一般式IIBの化合物において、形成されたエステルは、低級アルキルエステル、イミドエステル又はアミドエステルであることを特徴とする免疫測定法。

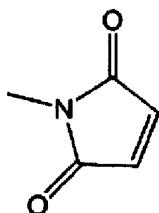
【請求項10】

請求項1～6いずれか一項に記載の免疫測定法であって、一般式IIAの化合物及び/又は一般式IIBの化合物において、Xはチオール基に結合可能な官能基であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項 11】

請求項 10 記載の免疫測定法であって、一般式 IIA の化合物及び / 又は一般式 IIB の化合物において、X は

【化 15】



であることを特徴とする免疫測定法。

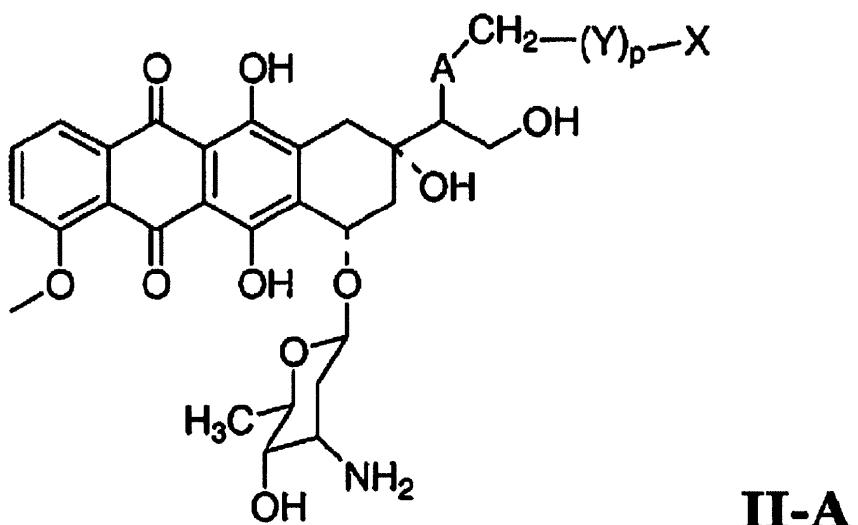
【請求項 12】

請求項 1 ~ 11 いずれか一項に記載の免疫測定法であって、試料はヒトの試料であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項 13】

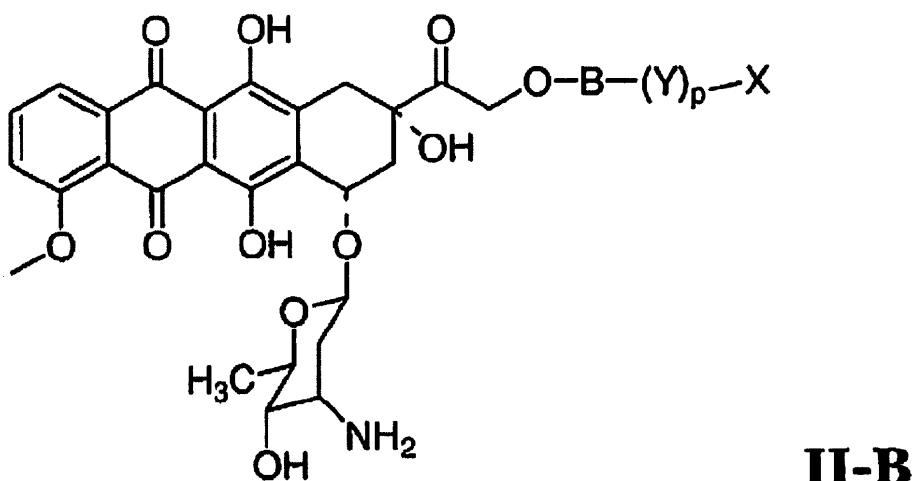
請求項 1 ~ 12 いずれか一項に記載の免疫測定法であって、前記抗体は、一般式

【化 16】



(式中、p, X, Y 及び A は請求項 1 ~ 10 のいずれかで規定されるとおりである) の化合物、又は一般式

【化17】

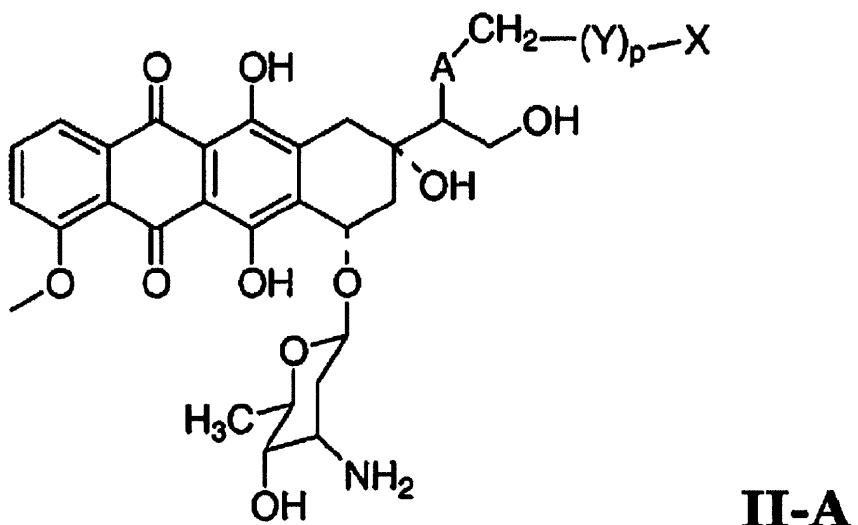


(式中、p, Y, X及びBは請求項1~10のいずれかで規定されるとおりである)の化合物、又はその混合物に共役された反応性チオール又はアミノ基を有する免疫原担体を含む免疫原から生成されることを特徴とする免疫測定方法。

【請求項14】

請求項13記載の免疫測定法であって、抗体を生成するための前記免疫原担体に共役する化合物は、一般式

【化18】



(式中、p, X, Y及びAは請求項1~11のいずれかで規定されるとおりである)を有することを特徴とする免疫測定法。

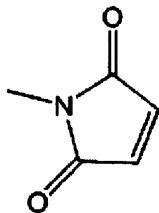
【請求項15】

請求項13又は14記載の免疫測定法であって、担体はチオール基を含み、免疫原ポリマーに連結する化合物におけるXは前記チオールに反応可能な官能基であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項16】

請求項15記載の免疫測定法であって、Xは

【化19】



であることを特徴とする免疫測定法。

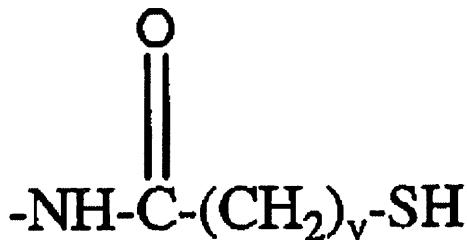
【請求項17】

請求項15又は16記載の免疫測定法であって、Yは低級アルキレンであることを特徴とする免疫測定法。

【請求項18】

請求項15～17いずれか一項に記載の免疫測定法であって、免疫原担体は官能基

【化20】



(vは1から6の整数である)

を含むことを特徴とする免疫測定法。

【請求項19】

請求項1～18いずれか一項に記載の免疫測定法であって、前記抗体は固形支持体に付着していることを特徴とする免疫測定法。

【請求項20】

請求項19記載の免疫測定法であって、前記固形支持体はマイクロタイタープレートであることを特徴とする免疫測定法。

【請求項21】

請求項19記載の免疫測定法であって、前記固形支持体は微粒子であることを特徴とする免疫測定法。

【請求項22】

ドキソルビシンに選択的に結合し、ドキソルビシンアグリコンに実質的に結合しないことを特徴とする抗体。

【請求項23】

請求項22記載の抗体であって、前記抗体はマウス、羊、ウサギ又はラットから誘導されることを特徴とする抗体。

【請求項24】

請求項22又は23記載の抗体であって、前記抗体はモノクロナール抗体であることを特徴とする抗体。

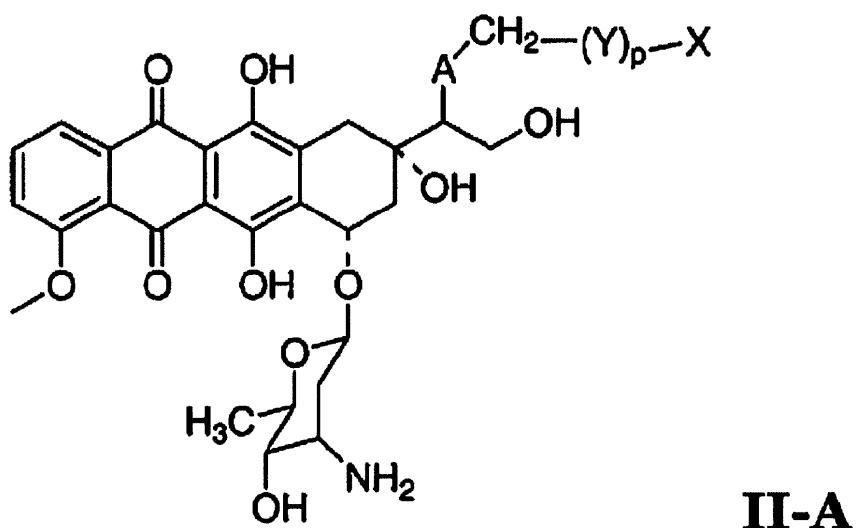
【請求項25】

請求項22～24いずれか一項に記載の抗体であって、前記抗体は、請求項13～18いずれかで規定されることを特徴とする抗体。

【請求項26】

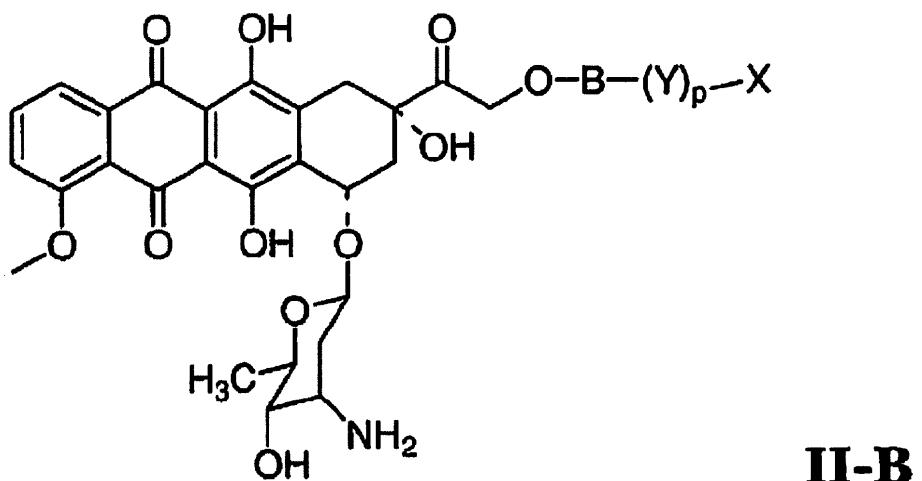
一般式

【化21】



(式中、p、X、Y及びAは、請求項1～11いずれかで規定されるとおりである)の化合物、
一般式

【化22】



(式中、p、X、Y及びBは、請求項1～11いずれかで規定されるとおりである)の化合物、

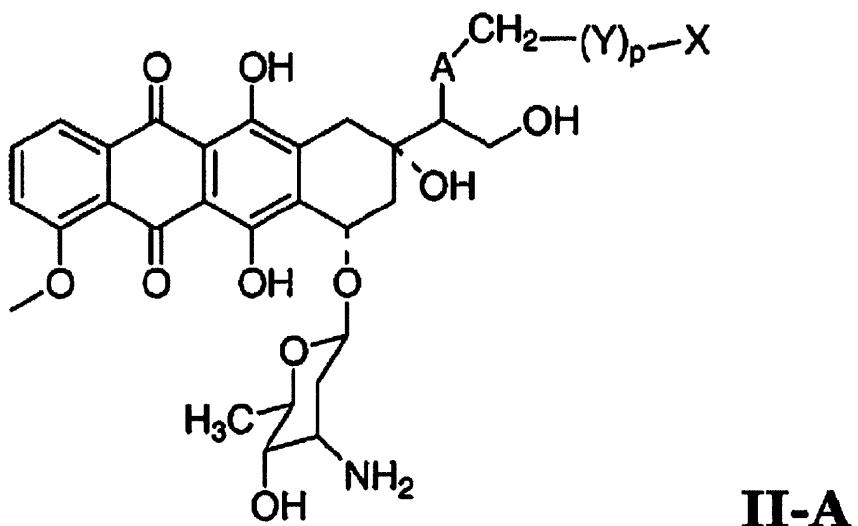
又は

これらの混合物。

【請求項27】

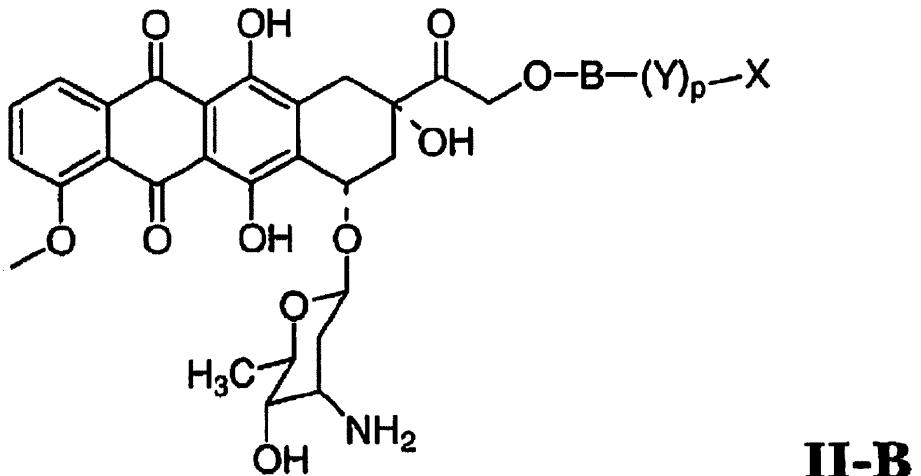
一般式

【化23】



(式中、p、X、Y及びAは、請求項1～11いずれかで規定されるとおりである)の化合物、
一般式

【化24】



(式中、p、X、Y及びBは、請求項1～11いずれかで規定されるとおりである)の化合物、

又は

これらの混合物を伴う官能チオール又はアミノ基を含むことを特徴とする担体の共役。

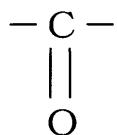
【請求項28】

請求項27記載の共役であって、前記担体は請求項15～18いずれかで規定されるとおりであることを特徴とする共役。

【請求項29】

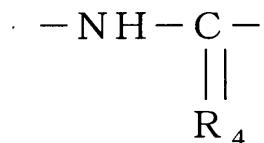
請求項27又は28記載の共役であって、担体は

【化 2 5】



又は

【化 2 6】



(R_4 は酸素又は硫黄である)

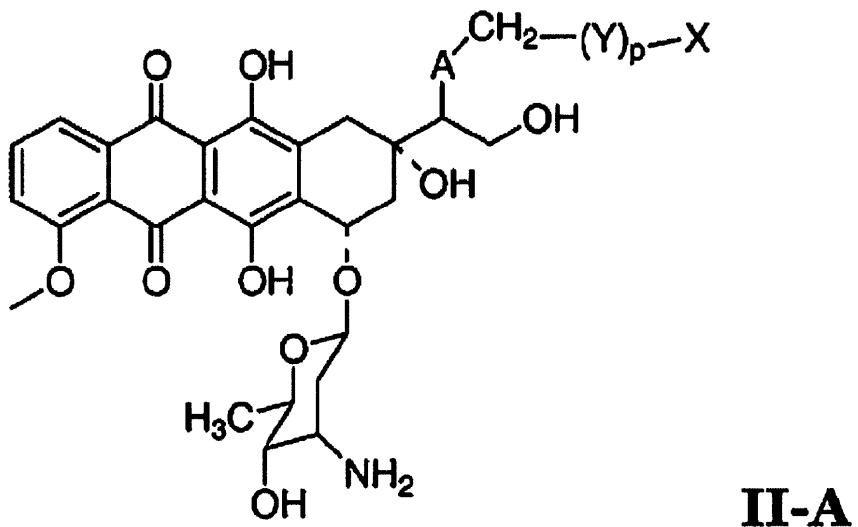
によって連結された1つ以上のアミノ基を含む免疫原重合体ポリマーを含むことを特徴とする共役。

【請求項 30】

分離した容器に詰められた試薬を含む患者試料中のドキソルビシンの存在を検出するキットであって、

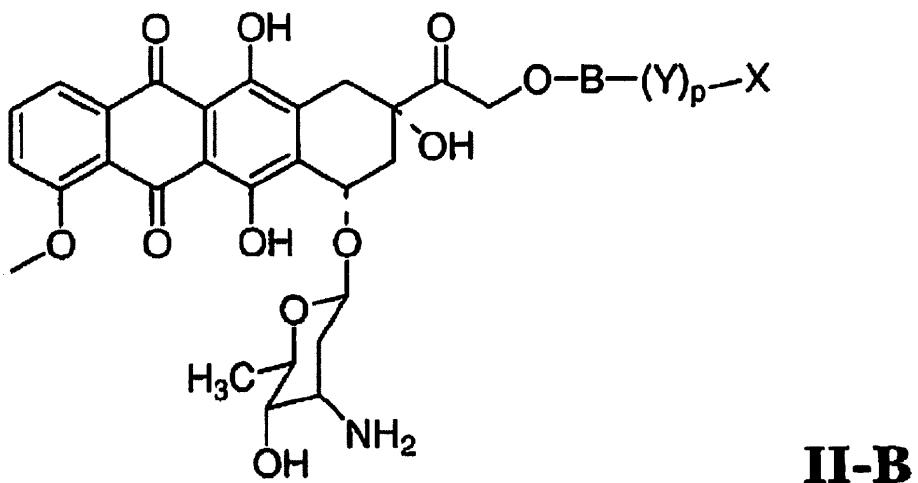
試薬の1つは、一般式

【化 2 7】



(式中、p、X、Y及びAは、請求項1～11いずれかで規定されるとおりである)の化合物、又は

【化28】



(式中、p、X、Y及びBは、請求項1～11いずれかで規定されるとおりである)
 の化合物、又はその混合物を伴う官能アミノ又はチオール基を含む担体の共役からなり、
 2つめの容器にはドキソルビシンに実質的に選択的に反応し、ドキソルビシンアグリコンに実質的に交差反応しない抗体を含むことを特徴とするキット。

【請求項31】

請求項30記載のキットであって、前記共役は前記1つめの容器に予め決められた量で存在することを特徴とするキット。

【請求項32】

請求項30又は31記載のキットであって、前記キットは前記試料中のドキソルビシン量を測定するのに使われることを特徴とするキット。

【請求項33】

請求項30～32いずれか一項に記載のキットであって、前記抗体は、請求項13～18いずれかで規定されることを特徴とするキット。